

令和7年度 伊那市立東部中学校 グランドデザイン

学校教育目標

- (1) 真剣にねばり強く学習する生徒
- (2) 広く豊かな心を持つ生徒
- (3) 勤労を尊び、打ち込む生徒

めざす子どもの姿

- すず竹** すず竹のごとくねばり強く
自分で考え、学習や勤労に自ら取り組む
- 学舎に魂合わせ** ともに認め合い・助け合い、
お互いを尊重し合える生徒

本年度の重点目標 東部中 Pride

「東部中のもつ活気と躍動感」をつなげる心意気。
「東部中らしさ・東部中として」と誇れる思い。

自主・自立

- 「自分で考え」「自分が決め」
「自ら動く」
- ・ 自分を知り、自分が決める機会を
 - ・ 授業で育てたい主体性・自主・自立の力と調整力

多様な学び～自己理解から～

- 「違うからこそ学び合う」
「違いを認め合う広さ深さ」
- ・ 自分らしい生き方へ
 - ・ 「独りになる」「誰も一人にしない」
 - ・ 授業で一人一人の学びを保証

学校長の願い

活気と躍動感あふれる東部中学校を目指し、主体的に、自ら考え、自ら行動できる生徒を育てたい。
個を尊重し、認め合う集団を育て、一人を大切にしながら、共に地域・社会へ思いを発信できる生徒に育てたい。

生徒会活動の目標

- 「学校生活」の向上と充実を図る。
- 学年間をこえた活動に、自主的に取り組み、一人一人が所属感、達成感を味わう。
- 「さくらプロジェクト」：仙台市立高砂中学校と互いの良さを学び合い、両校の絆を深める。

子どもを真ん中にして やわらかく包み込む東部中

活気と躍動感ある学校

- ・ 生徒の自主性を育て、成就感が得られる総合・生徒会行事「すず竹祭・合唱発表会」「地域感謝交流会」
- ・ 友のよさや互いにに関わり合う喜びを味わう学年行事の創造
- ・ 全職員による個々の生徒に寄り添ったチーム支援
- ・ 「Student First」の精神に基づく自主・自立する部活動

問いのある授業

全校研究テーマ「**自分を知り、学び方を考える**」
～認知や発達特性を活かした授業～

生徒一人一人の思いや考え、学びの道筋を捉え、その生徒らしさが生きる学習活動を展開する。そのために「観る」「聴く」「伝える」の3視点を重視した授業を構想するとともに、生徒の姿を通して、この3視点で教師自身が授業を振り返る。このプロセスの中で仲間、家族、地域とつながる生徒を育てていく。

ひらかれた学校

- ・ 東部中CSによる学校、家庭、地域が一体となった学校教育活動のさらなる充実（支援・評価・助言）
- ・ 安心安全な学校生活を支える教育環境推進協議会
- ・ 子ども相談室、SC、SSW、中間教室等との連携
- ・ 学区内小学校5校との情報交換や協議（小中連携会議・小中連絡会）

【1】主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- ねらいを明確にした「学習問題」、自他の伸びを認め合う「振り返り活動」
- 探究的な学習場面で互いの違いを認め合い深めていく「協働的な学び」
- 一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じた「指導の個別化」
- 一人一人に応じた活動や課題に取り組む「学習の個性化」
- 考えを広め深めていくためのICT機器等の活用

【2】学習内容の定着、学力伸長のための取組

- 学習委員会による「学びの足跡」の掲示
- 個別の課題克服や学習相談に応じる「相談・質問タイム」
- 知識・技能をはじめ、定期テストに頼らない学習評価の検討
- 全国学調、総合学力調査の結果分析を基にしたPDCAサイクルの構築
- 学校ボランティアによる学力向上支援事業（放課後補習授業）

伊那東部中学校 「学び合い」 style



【3】自己理解～生徒自ら学習をコーディネートする力の育成～

- 自分の学びと自分の生き方を見つめる「自分学」
- 授業と関連づけた「自学」による学びの連続性を構築
- 探究力や自分の言葉や図でまとめる力を育む自学ノート

【4】多様な学びの場をつくりだす取組

- 相談室や通級指導教室、日本語教室等、その子に応じた学習環境の整備
- 「学び舎」「つどい」等、学びのスタイルに応じた学習スペースの活用
- 個々の学習をサポートし伸ばす力をさらに高めるツール（手段）の活用

【5】授業力を高めるための教員の研究・研修

- 各教科の目標に応じた資質・能力を育成するための授業改善
各教科会による研究 テーマに沿った授業研究・公開
- 教科等横断的、普遍的な資質・能力を育成するための職員研修
OJT グループ研修 継続した研修会で教科を横断して共有

信頼され、安心で安全な学校づくりのための取組

職員研修

- ・ 職員会議での研修会（OJT 他）
- ・ 教師としての資質向上研修
- ・ 事例に学ぶ非違行為防止研修

学校評価

- ・ 匿名性を担保した評価
- ・ 回答しやすいICTを活用
- ・ 生徒による授業評価の実施

情報発信

- ・ 学級、学年通信の発行
- ・ 学校ホームページの充実
- ・ オクレンジャーの活用

業務改善

- ・ 子どもと向き合う時間の確保
- ・ 授業準備、教材研究の充実
- ・ 教員業務支援員による改善